

1. 看護部総括

看護部長

千代田操子

令和3年度は看護部長が変わり副看護部長2名との新体制となり、3つの目標を上げて取り組みました。

1つ目の目標は、病院理念の「心あたたまる病院」と看護部理念の「信頼される質の高い看護」を目指すために看護の心を育み、患者・家族がどのような人生を歩んできて何を一番大切にしているのかを理解し、「患者・家族の思いに寄り添った看護を提供する。」としました。

各部署が患者・家族に安全で安心できる看護を提供するために必要な学習を係が中心となって計画的に進めました。退院支援では、入院前から多職種カンファレンスなどを通して情報共有することが出来ました。

また、患者・家族の思いに寄り添うために必要な倫理的感性を育むために、eラーニングの活用や多職種での倫理カンファレンスに取り組みました。

2つ目の目標は、患者・家族、職員など誰に対してもホスピタリティマインド（おもてなしの心）で好循環をつくるために、「接遇力を向上し、組織を活性化する。」としました。

各部署が対話を通してお互いを認め合う職場となるようにアサーティブコミュニケーションを心がける事が出来ていました。朝から元気に挨拶を交わす姿は、とてもさわやかで一日の活力に繋がっていると感じています。

院内教育では、グループワークを中心に行う研修が増えたことも有り、病棟で行うカンファレンスや多職種カンファレンス内でも積極的に自分の意見を伝える事が出来るようになり、組織の活性化に繋がっていると評価しています。

3つ目の目標は、1・2の目標を達成することで「組織を持続発展させる。」としました。

各部署がリリーフ体制で協力し合い限られた人員で運営する事が出来ました。

また、2021年度は、新型コロナウイルス感染症の急激な感染拡大により、8月から10月まで内科患者を7階・5階・4階病棟で受け入れ、6階病棟を16床のHCU対応の確定患者病床としました。感染リスクや急な病床編成スタッフの不安やストレスはとても大きいものでしたが、各病棟がリリーフ体制で協力し合いクラスタの発生は有りませんでした。また、職員に加えて12歳から高齢者（かかりつけ）までのワクチン接種を感染対策室と共に毎週担当者を決めて行いました。新型コロナウイルス感染症の終息は見えませんが無事に乗り越えることが出来たのは、職員の意識の高さだと感謝しています。

次年度は、看護職員が昨年より少ない人数でスタートとなるため、看護補助者の活用や業務のスリム化、リリーフ体制の見直しを推進し看護が出来る環境を整える必要があります。

職員が生き生きと仕事出来る働きやすい職場を目指した労働環境の整備と自律して看護の心を育み看護力を強化する事が出来る人材の育成が課題です。

また、新病院建設や電子カルテの更新などのワーキングが始まります。組織を持続発展させる事を考え、これからも努力して参ります。



限られた人員の中で、病棟稼働率、新型コロナウイルス感染症対応等に伴う病床の再編など看護を取り巻く環境は引き続き厳しい状況です。そのような中でも、安心安全な看護を提供するため、部署を超えてお互いに補完し合いながら協力して取り組みました。

現場で対応する看護職員には厳しい労働環境が続いています。看護職員が心身の健康を維持し働き続けられる環境づくりのため、引き続き「働き方改革」の推進に継続して取り組みました。その結果、年5日の年次有給休暇の確実な取得推進を行い、昨年と同等に取得することができました。

医療現場では、今後、タスクシフト・タスクシェアの推進が求められています。業務負担軽減を行い、看護職がやりがいを持ち、年齢やライフステージにかかわらず心身共に健康で働き続けられるよう、引き続きヘルシーワークプレイス（健康で安全な職場）に取り組み続けます。

新型コロナウイルス感染症の拡大・蔓延は長期化し、看護職はその最前線で奮闘しています。このような中、少しずつでも教育を進めていこうと、さまざまな工夫を凝らし、院内教育を実施していきました。コロナ禍での院内教育研修について工夫した点は以下の2点です。

1点目は、蜜とならないように、参加人数を減らし、なるべく広い会場で実施するようにしました。

2点目は、これまで集合研修で実施していた知識確認や講義の部分を見直し、eラーニングで主体的に学習を進められるよう支援していきました。働き方改革や業務時間での研修の実施が求められる中、eラーニングシステムの活用は研修時間の短縮に大変役立ちました。

今後は、コロナ禍で臨床が疲弊している状況の中、ゆっくりと看護を主語に語り合い、学びあう場を作っていくことが課題です。明日からの看護に自信を持って臨めるよう創造していければと思います。

2. 看護部の理念と目標

【看護部の理念】

私たちは病院理念に基づき、市民の皆様信頼される質の高い看護を提供します。

【基本方針】

1. 人権を尊重し、安全・安心な看護を実践します。
2. 地域との連携を深め、継続的な看護を提供します。
3. 知識・技術・感性を磨き、自律した専門職を育成します。

【目標】

1. 患者・家族の思いに寄り添った看護を提供する。
2. 接遇力を向上し、組織を活性化する。
3. 組織を持続発展させる。

【各部署の目標と評価】

病棟目標は自部署の特徴にあわせて立案され、スタッフの個人目標に繋がり、概ね達成できました。看護力の強化に繋がったと評価しています。

部署	重点目標と評価
7階病棟	重点目標を「資源を最大限に活かし専門性と質の高い看護を提供できる」とし、協働をテーマに「安全・安心な看護」と「患者中心の看護」を提供できるよう取り組んだ。コロナ禍の変化する状況へ臨機応変に対応し、その結果をポジティブフィードバックすることが自律した看護師の育成に繋がった。また、グレードAの対応動画の作成など、多職種協働のための取り組みができ、質の高い看護実践につながったと評価する。
6階病棟	重点目標を「接遇力の向上に取り組み、患者・家族の思いに寄り添った看護を提供する」とし、感染症対策、高齢患者の早期からの退院支援、個別性のある看護実践に取り組んだ。特にCOVID-19陽性患者の受入を行う中で、コミュニケーションを大切に多職種で連携しながら統一した対応を行う事で、スタッフ及び患者の安全を守りつつ、特殊環境下でも患者が安心して療養生活を送るための支援に繋げる事が出来たと評価する。
5階病棟	重点目標を「ホスピタリティマインドにあふれる人財を育成し、エビデンスに基づいた安全な看護を提供する」とし、共に学びあい組織の一員として役割遂行を意識した。そして、根拠に基づいた安全な看護の提供を目指し、基本に立ち返り医療安全・感染対策マニュアルの遵守に取り組んだ。また、泌尿器科看護の標準化を目指し、クリニカルパスを導入した。超高齢化社会の到来に向けて、高齢者ケアの基本的な知識を獲得し、患者の思いを理解することに繋げる事が出来たと評価する。
4階病棟	重点目標「患者のニーズに合わせた質の高い看護を提供する」とし、安全な看護の提供や患者の思いを尊重したケアの提供、高齢者や急変に対応出来る看護師の育成と地域支援病院の役割遂行を目標にあげた。日々のカンファレンスで退院支援や患者のケアについて話し合い安全な看護や患者の思いを尊重したケアの提供を実践することができた。次年度は、退院前カンファレンスや退院後訪問の件数を増やし地域と継続した看護が出来るようにすすめる事が課題である。
3階病棟	重点目標「子どもと家族のニーズを共有し、安全で安心な看護を提供する」とし、家族の複合的なニーズを捉えて応えるためにスクリーニングシートを改訂し、全症例の退院支援カンファレンスを行うように整備した。地域や多職種・家族を含めたカンファレンスをおこない、患者・家族の意思決定や意向を尊重したケアの提供と退院後訪問など地域も含めたチーム医療を推進した。また、感染症の受け入れを継続し、新生児科からの移行支援にも柔軟に対応して安全で安心な看護を提供した。
新生児科病棟	重点目標「赤ちゃんを中心に家族を支え、地域の暮らしにつなげる」とし、コロナ禍において、患者が家族の一員として地域で暮らせるようにするにはどうしたら良いか、倫理的視点を持ちつつ面会方法の工夫や退院支援をおこなった。また、消化器外科患者の受入に伴い、必要な知識の習得や、マニュアルを作成し、安全な看護の提供に取り組んだ。今後も安全、安心な看護の提供を継続する。
ICU病棟	重点目標「クリティカルケア看護の基本を踏まえて、安心な療養環境を提供する」とし、ノンバーバルコミュニケーションの実践によるチーム力の向上、業務の効率化と医原性の合併症の予防、クリティカルケア看護の基本的スキルの習得に取り組んだ。これらの取り組みを通して、チームの要である看護師としての基本的スキルを見直すことになり、安心な療養環境につながったと評価する。
手術室	重点目標を「患者と家族に対して思いやりのある姿勢で接し、安全安心な看護が提供できる」とし、手術患者・家族への対応の見直しや看護実践の振り返りによる倫理観の共有、緊急手術のシミュレーション教育を初めとした専門的技術の習得に取り組んだ。また、コロナ陽性患者の手術受入れ体制を整備し、チームで感染対策を行った結果、安全安心な手術対応につなげることができたと評価する。
外来	重点目標を「互いを思いやり、チームとして安全な治療環境を提供する」とし、互いの意識や考えの相違を理解し合うことが安全な治療環境の提供につながると考え、チームワークに関する勉強会や関連する多職種とのミーティングを通し対話の推進を図った。また、院内急変対応システムとしてMETを稼働し、シミュレーションによる啓蒙活動、院内IGLS講習の開催など、救急医療体制の強化に取り組み、安全な治療環境の提供に繋がったと評価する。
相談センター	重点目標は「入院前から退院、在宅まで見据えた患者中心の看護を提供する」とした。コロナ禍での入院支援では、感染状況に応じた面会制限や入院中のマスク着用の協力依頼を説明し、入院中に面会できないことで生じる患者や家族の不安・思い等を確認して患者の思いに寄り添い、外来や病棟と連携を図った。 総合相談では、不安が強い患者の相談に丁寧な対応を心掛け、不安の軽減や関連部署に繋げることが出来たと評価する。今後も患者中心の看護を継続していく。

3. 看護職員状況（常勤）

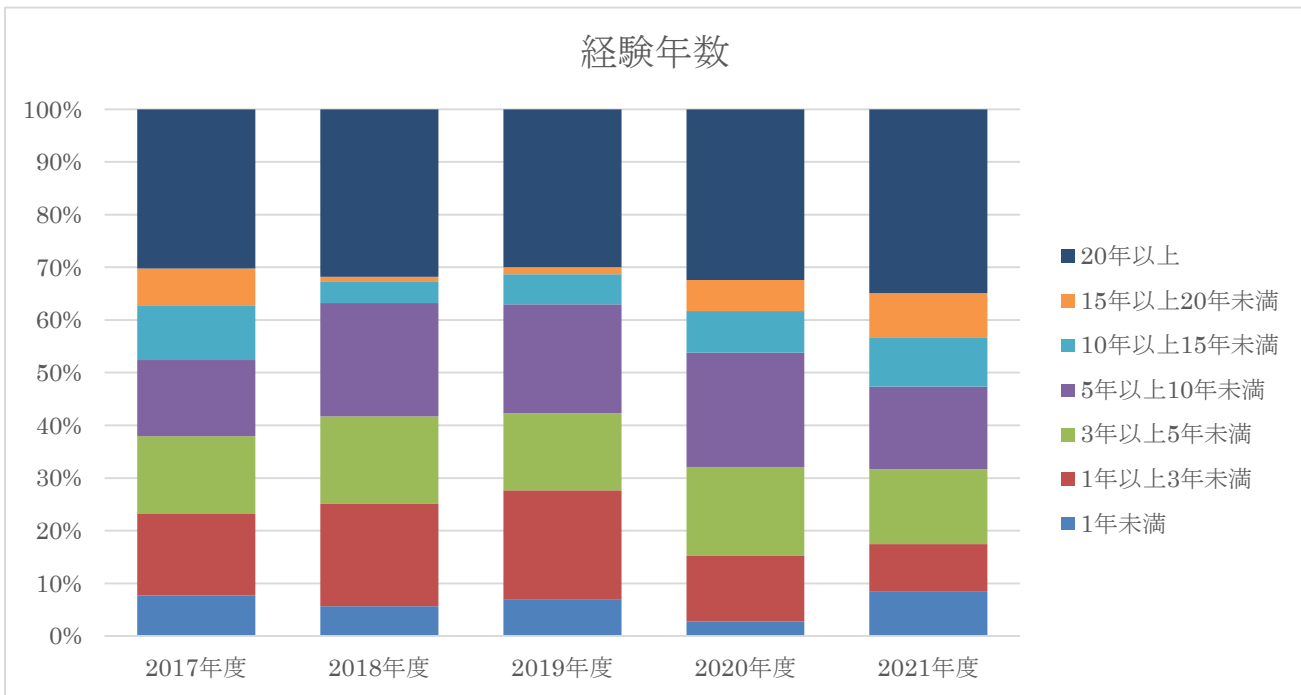
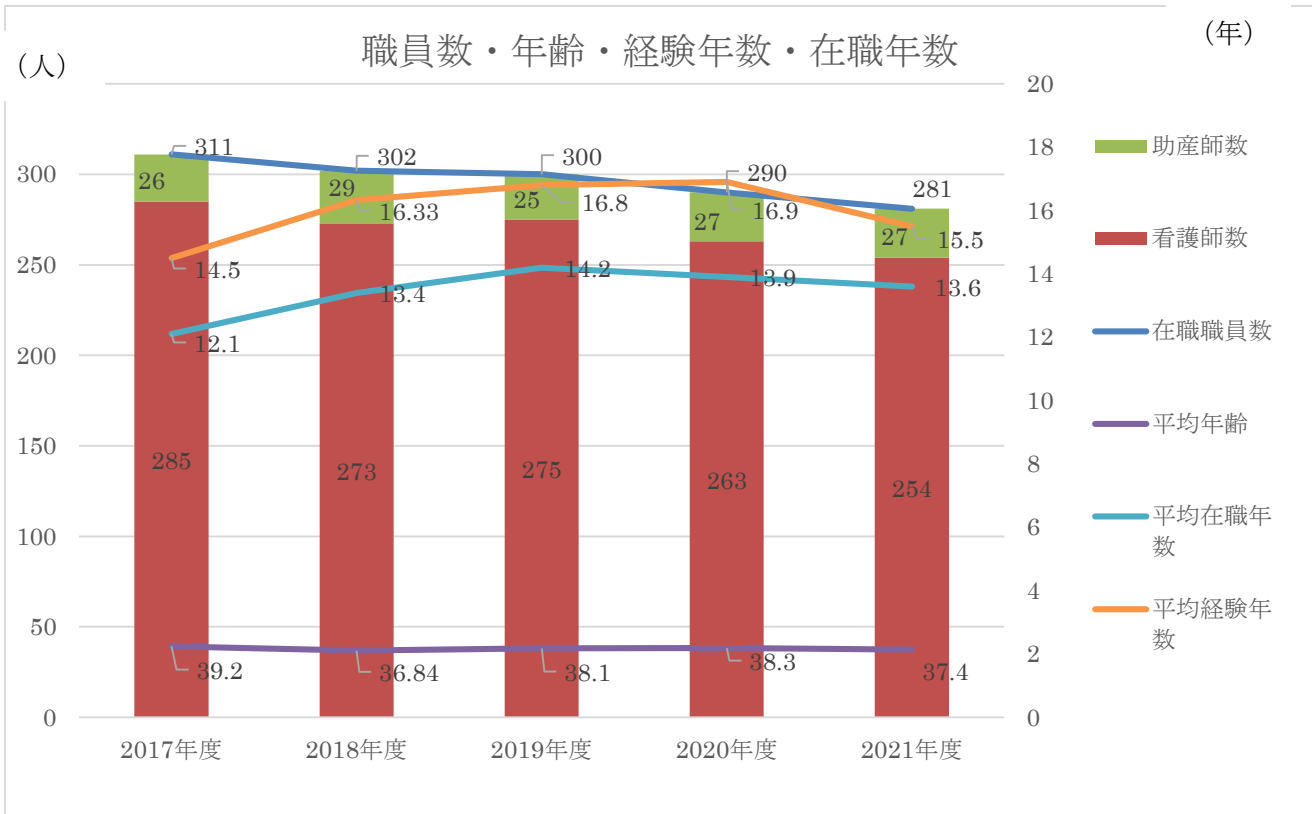
- 1) 看護配置状況 令和3年4月1日時点 病床数： 293 床 看護単位：9 単位
 常勤看護要員：看護師 254 名 助産師 27 名 介護福祉士 3 名 看護補助員 4 名
 会計年度任用職員看護要員：看護師 13 名 助産師 1 名 介護福祉士 5 名
 （非常勤） 看護補助員 3 名 看護クランク 7 名

病床等

看護単位	病床数	看護配置体制	備考
7Fユニット	44 床 (MFICU：3 床)	7 対 1 (MFICU：3 対 1)	
6Fユニット	53 床	7 対 1 ハイケアユニット入院医療管理料 (常時 4 対 1) 4 床	新型コロナウイルス陽性患者 対応
5Fユニット	50 床	7 対 1	
4Fユニット	44 床	7 対 1 小児入院医療管理料 4 (12 床)	
3Fユニット	42 床	小児入院医療管理料 1 常時 7 対 1 夜間 9 対 1 ハイケアユニット入院医療管理料 (常時 4 対 1) 4 床	新型コロナウイルス陽性患者 受け入れ対応
NICU	21 床	総合周産期特定集中治療室管理料 2 <u>常時 3 対 1</u>	
GCU	25 床	小児入院医療管理料 1 常時 7 対 1 夜間 9 対 1	
ICU・CCU	14 床	ハイケアユニット入院医療管理料 <u>常時 4 対 1</u>	新型コロナウイルス陽性患者 受け入れ対応
手術室	5 部屋		

2) 職員動向 :

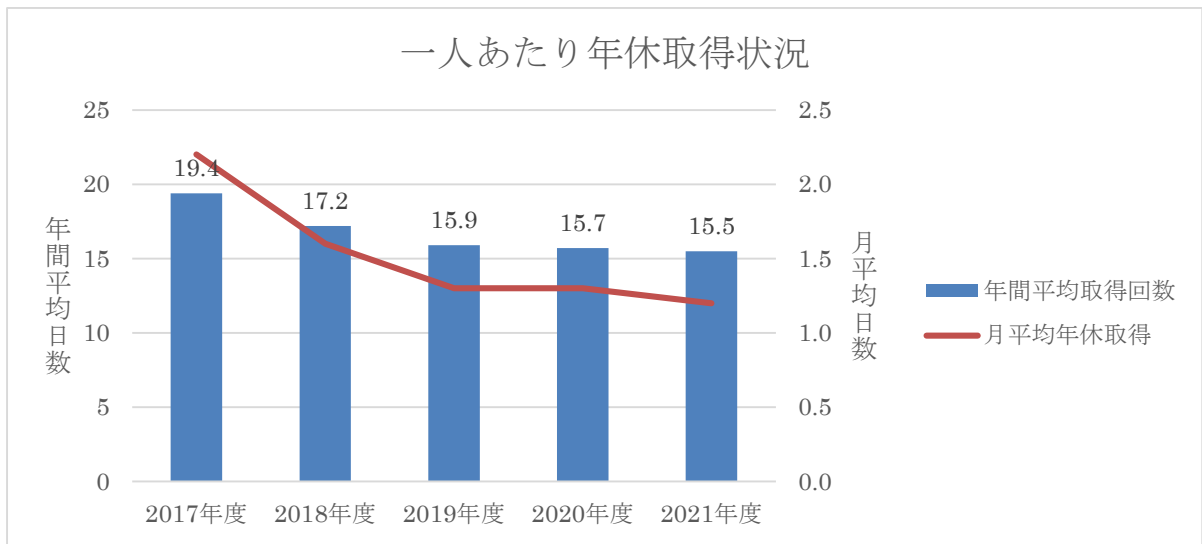
① 看護師・助産師数・平均年齢・平均在職年数・平均経験年数



② 2021年度 産休・育休・特別休暇等の取得状況 (令和4年3月31日時点)

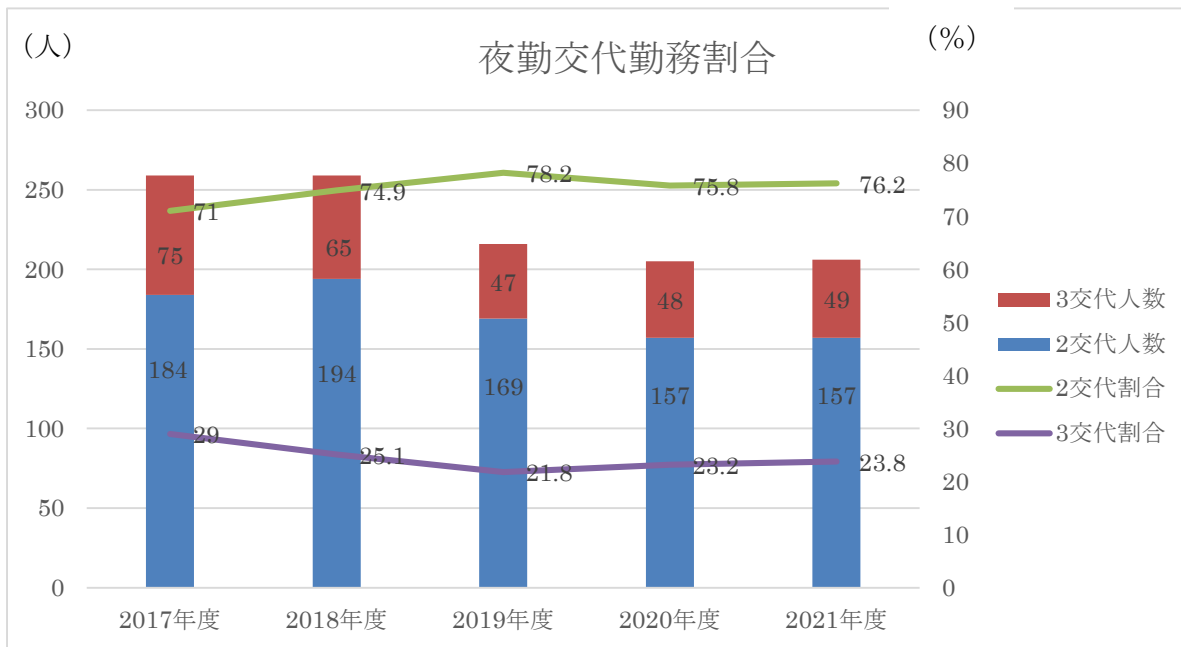
	産休	育休	部分休	育児短時間 夜勤無	育児短時間 夜勤有	介護	病休	休職	計
人数	13	25	13	15	12	2	31	3	114

③ 年休取得状況（令和4年3月31日時点）

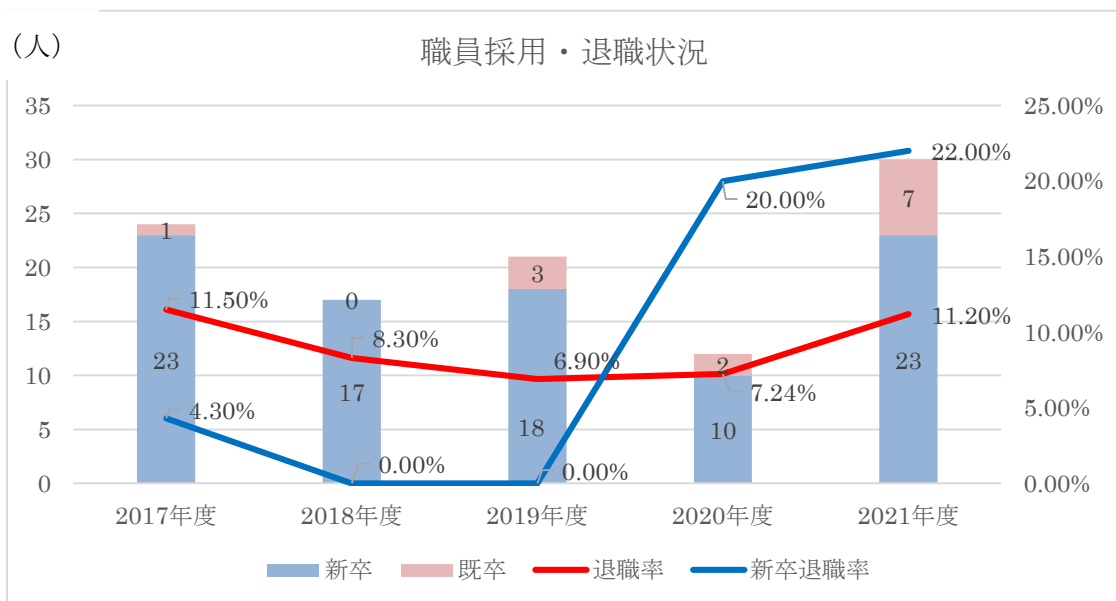


④

3) 夜勤選択割合（2交代と3交代）（令和4年3月31日時点）



4) 採用と退職者数（令和4年3月31日時点）



4. 2021 年度研修受講状況

	全体	フルタイム勤務	部分休勤務	短時間勤務
研修対象者数（人）	288	233	13	27
院外研修・学会受講数（人）	170	156	5	9
院外研修受講率	59%	66%	38%	33%
院内研修受講数（人）	330	316	9	5
院内研修受講率	114%	135%	69%	18%
院内研修計画予定テーマ数	36			
院内研修中止テーマ数	0			
e-ラーニング受講率	85%			

5. 看護部 2021 年度委員会活動

各委員会	活動内容
教育委員会	<p>コロナ禍においても教育を進めていこうと、教育委員会のメンバーがさまざまな工夫を凝らして年間計画通り実施できた。</p> <p>今後は、コロナ禍で臨床が疲弊している状況の中、ゆっくりと看護を主語に語り合い、学びあう場を作っていくことが課題である。</p>
臨地実習指導委員会	<p>2021 年度も新型コロナウイルス感染症拡大により、BCP のフェーズに準じた受け入れを行った。そのため、受け入れ停止や実習時間の短縮をフェーズに併せて、教育機関との連携を強化して柔軟に対応した。</p>
業務・改善用具検討委員会	<p>2021 年度は、看護用具・医療機器管理方法の見直しをおこなった。具体的には、栄養ポトルや栄養チューブの管理方法や、ナースコールボードの表示方法、水分出納表などについて院内で共有し統一した。今後も安全で、質の高い看護を提供するための無駄を省き、業務の改善を行うとともに、適正な看護用具・医療機器管理および整備をおこなっていく。</p>
記録委員会	<p>2021 年度は状態一括と担送・護送基準の改定を行った。また、記録の精度を高めるために年 2 回、看護記録と重症度医療・看護必要度の監査を実施した。基準に沿った記録ができるように監査の結果を各部署にフィードバックした。</p> <p>記録に関する研修は、委員が講師となりラダー別に実施した。</p> <p>ラダーⅠ「看護記録記載基準について」「重症度・医療・看護必要度について」「看護診断、看護計画について」、ラダーⅡ「看護記録の基礎①」、ラダーⅢ「看護記録の基礎②」ICU と一般病床「重症度、医療・看護必要度」</p>
看護師助産師会	<p>新入職会員に歓迎の記念品を贈呈した。会員にむけた講演会は、講師に我孫子薫氏を招き、ディズニー流キャストを元気にさせる仕組みと題して元気な職場作りのヒントについて講演された。今後も、看護師・助産師同士の親睦・研究・教育を通し自己研鑽を図れるよう、会員の支援を行っていきたい。</p>
アシスタント会	<p>毎月スキルアップの勉強会を開催し、日々の業務を振り返ったり、困り事を共有したりしながら業務改善につなげた。</p>
アシスタント業務検討会	<p>看護補助者業務マニュアルの見直しを行った。また、12 月より一般病棟に夜間看護補助者が配置となり、導入から業務実施までの確認を行った。次年度は、看護職員のタスクシフトに向けて業務整理が課題である。</p>

6. 看護部実績

1) リソースナース会 活動状況

専門領域の強化

日本看護協会認定の専門看護師【母性】1名、認定看護師【新生児集中ケア、緩和ケア、糖尿病看護、皮膚・排泄ケア、集中ケア、感染管理、乳がん看護、がん化学療法看護、摂食・嚥下障害看護、認知症看護】16名は、質の高い看護を提供するとともに、院内・院外の講師として活躍している。
また、学会認定の認知症ケア専門士取得者は、「院内デイケア」の計画など増加する高齢者への活動を積極的に行っている。

分野	クリティカルケア領域：町田 裕子、岡崎 麻衣
実践	ICU 病棟で新型コロナウイルス感染症患者を受け入れるにあたり、医師や臨床工学技士、感染対策室等の多職種と連携し、ゾーニング等の環境整備や医療機器の取り扱い、病室環境、看護ケア提供環境等を整備した。同時に、看護実践では、面会制限のあるなかで生命の危険に瀕している患者家族へのケアを他職種と意見交換を行いながら、環境等工夫して整備した。
指導	患者を守るとともに、医療者自らを守るため、病室環境や医療機器の取り扱い、防護具の脱着等感染管理認定看護師と協力しながら指導を行った。また、医療機器装着患者を中心に、ベッドサイドケアをスタッフと共に実践し、ケア方法等を共有した。
相談	医療機器装着患者へのケアを中心に相談に応じている。

分野	緩和ケア：高島 美智子
実践	コロナ禍の状況において入院病床の逼迫や面会制限により、終末期患者が入院では意向に添った生活ができないことが多い。がん看護外来や緩和ケア外来を中心にアドバンス・ケア・プランニングを行い、患者・家族の意思決定により添いながら、最期までその人らしく過ごせるように関わった。患者・家族の生活サポートのため、積極的に在宅への訪問を行っている。
指導	チャレンジレベルⅢ以上を対象の、院内における緩和ケアの中心となる看護師を育成するための研修を継続している。研修修了後は各自が病棟のリンクナースとして活動できるように、継続した指導を行っている。
相談	スタッフの相談は、実践対応し解決できるように取り組んでいる。専門知識を活かし、地域の訪問看護ステーションの看護師と同行訪問を行い、症状コントロール等に対するアドバイスをを行う事ができた。

分野	母性看護：阿部 祥子
実践	コロナ禍における面会制限に伴い、オンデマンドでの両親学級の実施に向けて活動を行った。高度実践としてハイリスクな対象者に対して、心理的ケアをサブスペシャリティとして母親意識の形成・発達支援・母親役割支援を行った。
指導	病棟において女性を中心にしたケアの理論に基づき、対象である母親を理解しながら事例の振り返りを企画、実施した。今後も継続し、看護レベルの向上に努めるとともに、勉強会を開催、知識の啓蒙も図っていききたい。院内においては倫理Ⅱのコース研修を実施した。
相談	病棟スタッフからの患者ケア（主に妊産婦・母乳・退院支援など）に対する相談に対応した。今後はスタッフからの発案である双子、品胎にむけての支援実施にむけて支援し、取り組んで行く。また他部署からの授乳や妊産婦に関する相談にも対応するための広報活動を行い母性看護の充実につなげたい。

分野	乳がん看護：中村 志穂
実践	初発・再発の乳がん患者に対して、身体的、心理的、社会的な問題に対応し、意思決定支援を実施した。早期から介入できるよう、告知・治療説明のICに同席するようにし、心理面のサポート、意思決定支援につなげることができた。今後は、他のがん領域の認定看護師と協働し、がん看護外来の充実を図り、さらに個別性に合わせたケアを提供するよう努めていきたい。
指導	チャレンジレベルⅢ以上のスタッフを対象に、緩和ケア認定看護師と協働し、「がん看護（緩和）」コース研修を行った。各部署での看護実践能力の向上を促進できる看護師の育成に取り組んでいる。
相談	病棟、外来ユニットの看護師から相談を受け、患者の言動、症状からアセスメントを実施し、提供するべき看護について共に考えることができた。今後は、定期的にカンファレンスの機会を持ち、コンサルテーションを受けやすい環境作りをしていきたい。

分野	新生児集中ケア：伊東 真弓
実践 指導	新生児に関する専門的知識を活かし、産婦人科病棟の1～3年目のスタッフを対象に新生児のフィジカルアセスメントに関する勉強会をおこなった。新生児に関わるスタッフの、フィジカルアセスメントに関する知識の向上を図ることで、誰もが異常の早期発見ができるよう今後も継続して取り組んでいきたい。
相談	今後は、新生児の退院支援に関する相談に関し、家族の負担や不安が軽減できるよう対応したい。

分野	皮膚・排泄ケア：鈴木 修子
実践	ストーマとともに生きる患者がその人らしく生活するために、主治医、訪問看護ステーション、地域連携室と綿密な情報交換を行いながら、入院・外来を通じて継続支援を行っている。ストーマケアを通じ、安心できる関係性の構築や患者を取り巻く社会的資源の充足に取り組んでいる。2021年度のストーマ外来件数は217件であった。また、入院患者においては、適切な創傷管理および排泄管理による苦痛の軽減と早期治癒を目指し、看護実践を行っている。
指導	2021年度は「患者の安全と安楽を充実させるベッドケアの普及」を目標に活動を行った。内科病棟では看護師・介護福祉士全員に適切なオムツ装着の実技指導を行い、不適切な排泄管理やオムツ漏れを減少させることができた。また、褥瘡対策チームとして各病棟でポジショニングの出前研修を行い、理学療法士との意見交換の場を設けながら知識と技術の普及を図った。
相談	新規院内コンサルテーション57件、その後の病棟訪問は延べ82回であった。相談においては問題解決のための個別の具体策を提案している。日本オストミー協会千葉県支部において若いオストメイトを対象に日常生活上の相談を受け、地域との交流を図った。

分野	糖尿病看護：水谷 幸子
実践	新型コロナウイルス感染症の流行下でも、糖尿病を持つ患者・家族への支援ができるよう多職種と連携し、糖尿病教室の運営方法について再構築している。また、糖尿病療養支援を目的とした看護外来の開設に向け計画書を作成中、次年度の開設を目指している。
指導	院内の看護スタッフに対しても勉強会を開催する事で糖尿病に対する知識を深めてもらい、患者に対し安全な看護が提供でき糖尿病看護の質の向上を目指していきたい。
相談	主に自部署の看護スタッフからの薬物療法、低血糖時の対応についての相談に対応した。糖尿病患者は院内どの部署にも存在するため、自己の存在を認知してもらえるよう広報し、相談が来るのを待つだけでなく、自身から他部署に出向き相談件数を増やしていきたい。

分野	感染管理：窪田 真弓・大内 咲絵・佐々木 みゆき
実践	病院内で発生する感染症の監視、対応、疫学的調査、また多剤耐性菌の保菌状況の把握と管理を行った。新型コロナウイルス感染症に対しては、最新の情報収集につとめ、適宜、院内の対応を整備し感染防止に努めた。入院だけでなく、発熱外来、陽性者外来に対応し、千葉市以外からの小児科、産科の入院依頼も可能な限り受け入れた。第4波、5波、6波と患者数が増加する中でも院内クラスターを発生することはなかった。また新型コロナウイルス感染症だけでなく、他の感染症のアウトブレイクを起こすこともなかった。
指導	ICT ラウンドを通して標準予防策の遵守状況や環境整備状況を確認し指導した。AST では抗菌薬が適正に使用されているか確認し、必要があれば適正使用となるよう指導した。院内研修は、e—ラーニング研修とし、自宅での視聴だけではなく会議室でコンテンツを投影して視聴できる環境も準備した。研修参加率 100%を目指し対象者へ働きかけ、99%であった。
相談	認定看護師 3 名で看護部門の各部署を分担して担当している。相互に連携をとりながら電話やメールでの相談に応じた。主な相談は新型コロナウイルス感染症への対応だった。 また部署の感染係から、手指衛生剤使用量増加に向け相談があり対応した。

分野	認知症看護：藤原 成美
実践	2020 年より認知症ケア加算 1 を取得し、多職種で毎週木曜日にチームでラウンド・カンファレンスを施行している。多職種で認知機能の更なる悪化予防と BPSD やせん妄時の早期ケア介入とケアの見直しや環境・薬剤調整、退院調整を行っている。また、新型コロナウイルス感染予防に努めながら、木・金の週 2 回各病棟で開催することができ、定着することができた。
指導	各部署で定期的に毎週認知症ケアカンファレンスを開催し、困難事例やケア方法について話合うことで倫理的感性を育める場をもち、ケアの質向上につなげることができた。また、多職種カンファレンスを開催し、退院調整へつなげている。認知症ケアカンファレンスの定着を目指している。院内デイケアでは、具体的なケア方法や参加前後の変化をケアチーム・病棟スタッフへ共有し、退院調整へつなげている。また、リンクナースとも協働し、ロールモデルになることを目指した。
相談	主にラウンド時やケア・対応の困難時に相談を受け、一緒に解決できるよう取り組んでいる。主に薬剤調整方法や環境調整方法についてスタッフや多職種とも連携して対応し解決することができた。また、困難事例などについては振り返りカンファレンスを行い、今後のケアへ繋げている。

分野	摂食嚥下障害看護：樋口 智也
実践	摂食嚥下障害に関する最新の知識を活用し、言語聴覚士や管理栄養士などと連携し、患者と家族に支援を行っている。在宅療養を望む患者や家族に対して、食事に対する注意点や口腔ケアの指導を行い。実際に退院後訪問での継続看護に繋げることができた。今後は嚥下サポートチームを立ち上げ、チーム医療としての介入を推進するための役割を目指す。
指導	病棟看護スタッフに対して「口腔ケア」の勉強会を行った。また、新人看護師や看護補助員に対して「食事介助と口腔ケア」をテーマに勉強会を行った。次年度は摂食嚥下障害看護において各部署の中心的役割となる看護師の育成のために「アドバンス研修」の開催を予定している。自部署では嚥下をテーマにしたカンファレンスやミニ講座を開催し、摂食訓練や口腔ケア等の実践を通じて看護職者に対して役割モデルを示すとともに具体的な指導を行なった。
相談	NST ラウンドを通じて相談対応を行なった。看護職者以外にも医師や管理栄養士などから口頭での相談を受ける機会が増加した。今後も実践を通して相談件数の増加に繋げる。

分野	がん化学療法看護：狩野 桂子
実践	<p>抗がん剤曝露対策の整備として、抗がん剤投与場面におけるCSTD導入を検討。試験導入を行った後に使用器材を決定し、今年度は外来化学療法室での揮発性抗がん剤投与時を対象に導入を開始した。次年度に向けては病棟での投与場面での導入および全ての抗がん剤投与時での導入を進めていく。</p> <p>がん看護外来での対応としては、所属部署入院中のがん患者を対象に病名および治療に関するICへの同席を行い、その後のフォローアップを行った。次年度に向けては、がん関連認定看護師で協働し、患者・家族が「がんと共に生きるための支援」を行なえるよう、がん看護外来の充実を図っていきたいと考える。</p>
指導	<p>所属部署における抗がん剤投与場面において、主に安全な投与管理、投与前後の観察、曝露対策についての指導を行った。外来化学療法室においては、有害事象（悪心嘔吐、末梢神経障害、食思不振、手足症候群）に関する相談対応の実践を通し、症状のアセスメントおよび対処方法について部署スタッフへ指導を行った。</p>
相談	<p>主に所属部署や外来化学療法室スタッフより、意思決定支援や有害事象への対応、告知後の対応について相談あり。必要に応じて患者面談を行うと共に、部署スタッフが主体的かつ継続的に介入を行なえるよう支援を行った。</p>

2) 相談支援センター： 2021年度総合相談件数推移・退院後訪問件数推移

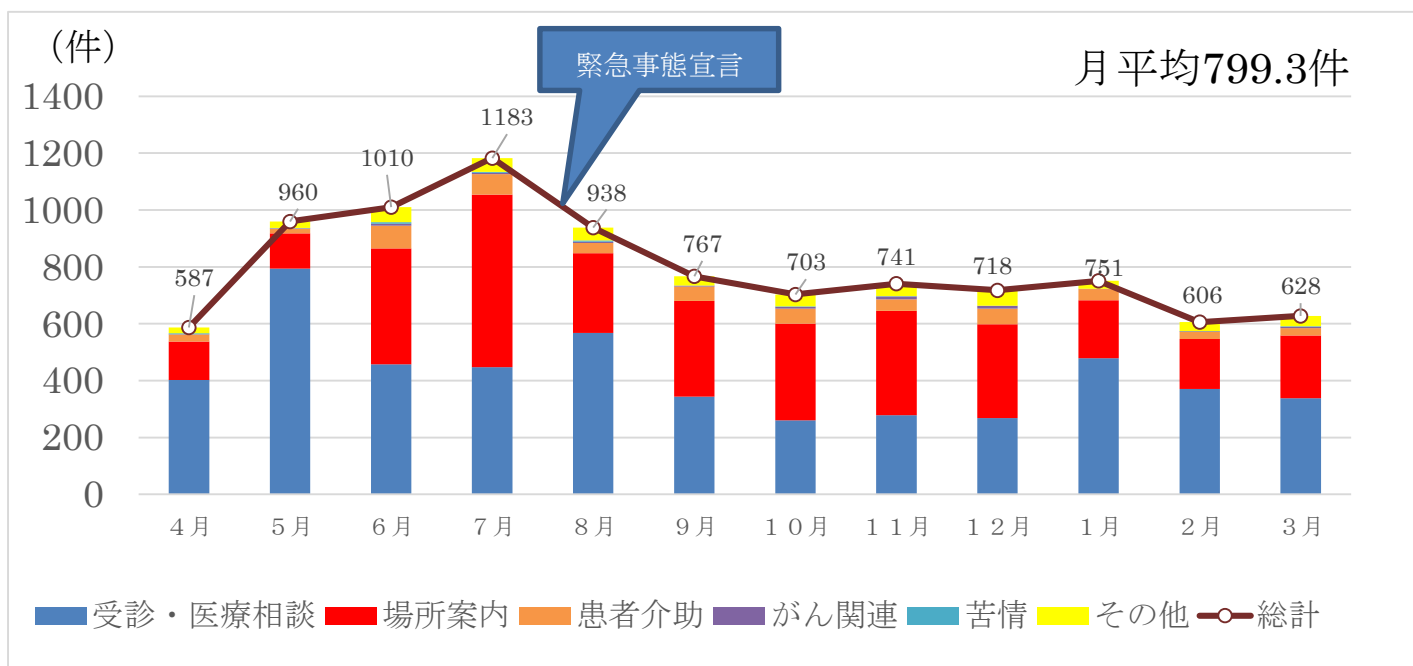
総合相談件数は、7月緊急事態宣言後に減っている。(図①)

入院支援では、平均285件/年であった。(図②)

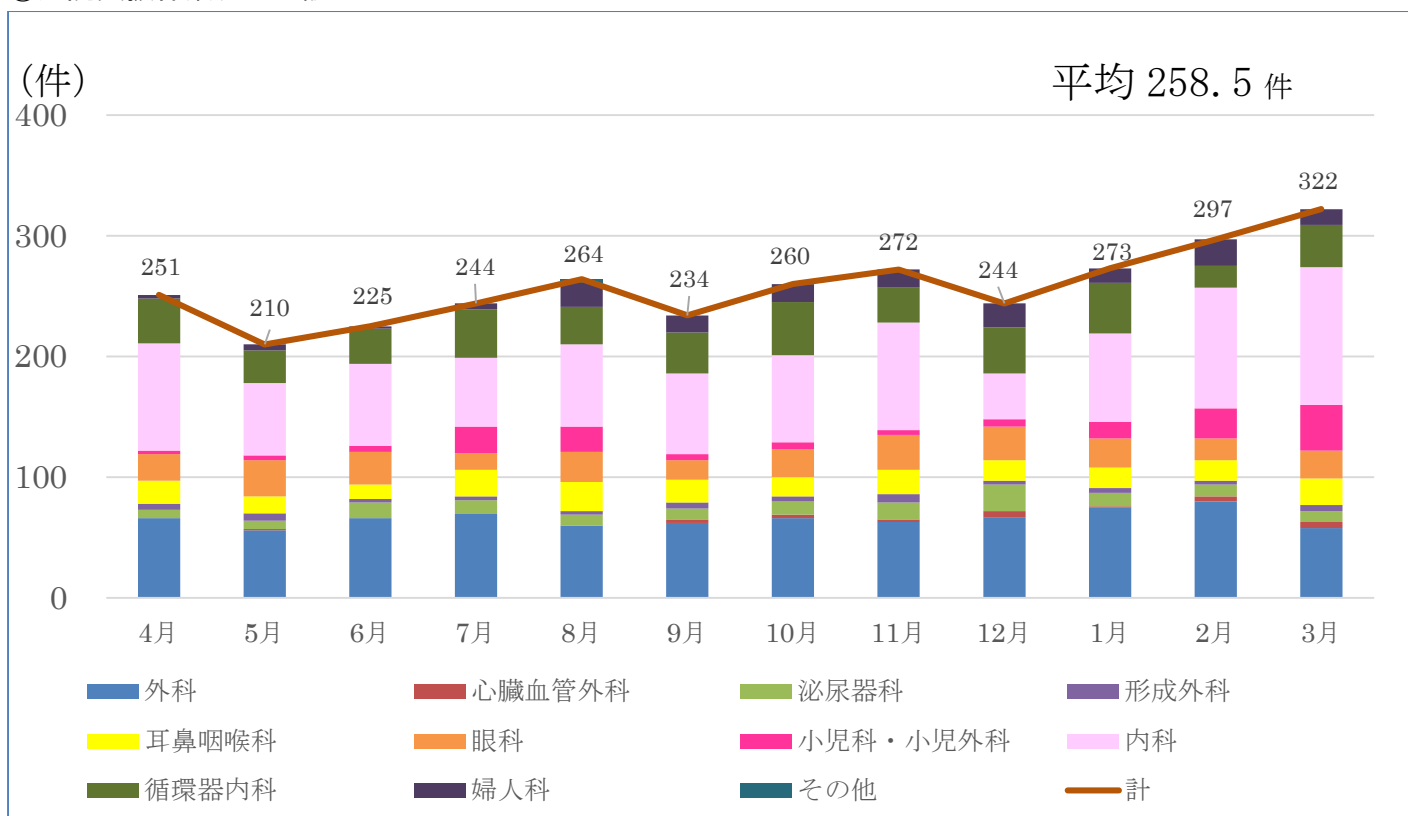
地域でも安心して暮らせるよう退院後訪問や同行訪問のほか、今年度からはじめた訪問診療にも同行し、医療的な視点で無く、看護の視点で患者の生活環境を整え、在宅支援のための調整を図った。今年度は計45件実施した。

(図③)

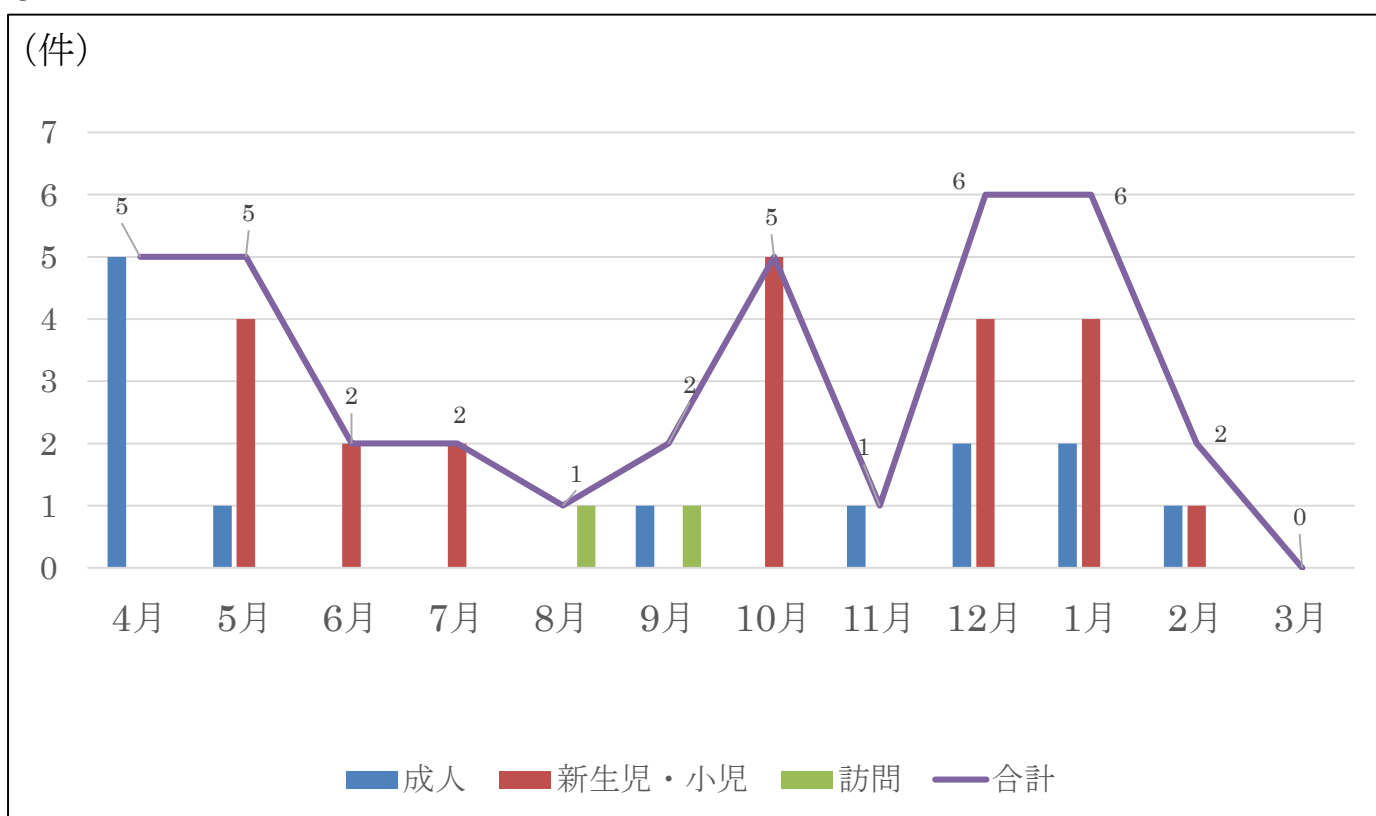
①総合相談及び総合相談内訳



②入院支援件数及び内訳

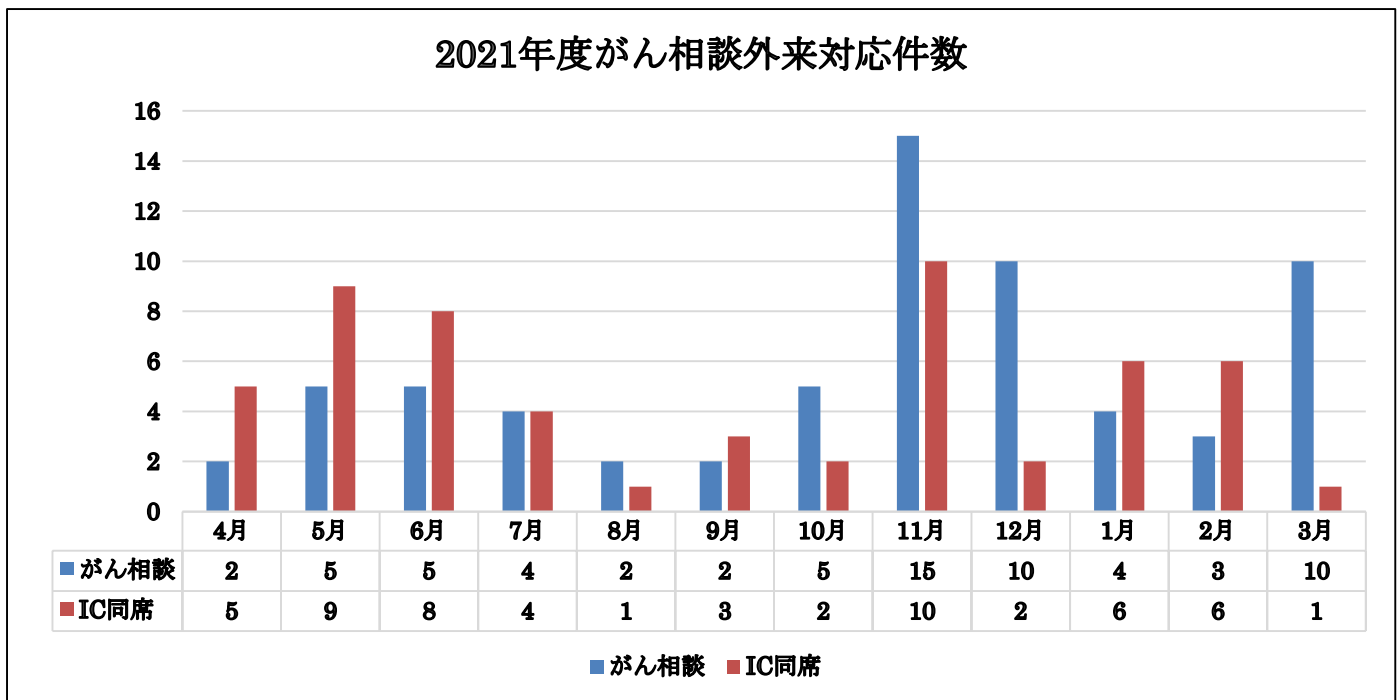


③退院後・同行訪問件数及び内訳

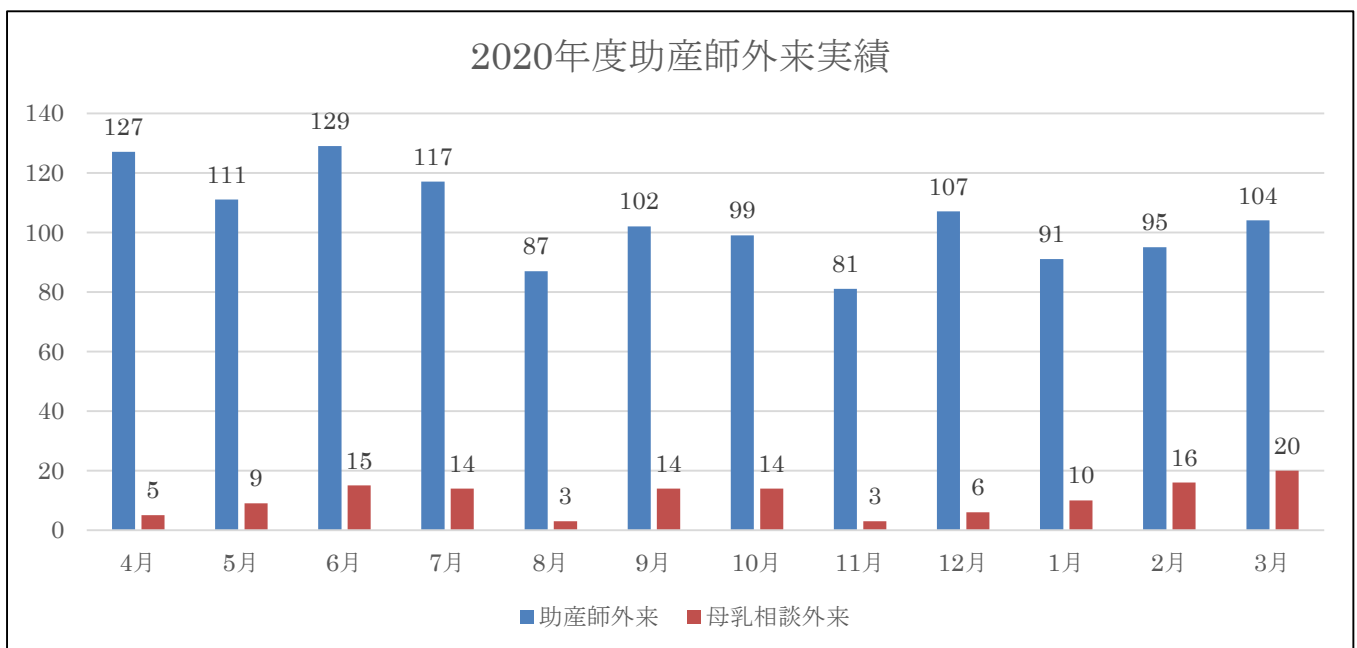


3) 看護外来：【がん看護外来】・【助産師外来・母乳育児外来】2021年度 実績

① がん看護外来 (総数：67件)



② 助産師外来総数 (助産師外来：1379件、母乳相談外来：129件、10月から開始した産後2週間健診81件)



分娩件数は、昨年度から減少しており、助産師外来数も減少傾向である。

今後の課題は、産後ケアの充実・母乳推進を図るための助産師外来の仕組みを再構築していきたい。

4) 看護部主催 教育講習会開催：【新生児蘇生法】2021年度 講習会開催

2021年度は、感染予防のため開催を中止した。

5) 院外活動：地域活動・集患 【看護部主催 公開講座】

① テーマ 「いきいき元気に暮らそう」

毎年、地域への情報公開・健康推進のため「生き生き元気に暮らそう」をテーマに公開講座を開催していたが、新型コロナウイルスの状況を鑑みて病院のホームページ上でYouTube 配信とした。コロナ禍で、自宅で巣ごもり生活となったことで、食生活の乱れや検診離れ等の課題もあり、健康講座内容とした。配信にあたり、気軽に見ることが出来るようにポスターにQRコードを付け、検索しやすいよう工夫した。



海浜病院 ホームページ
オンライン健康講座用
QRコード



	講座名	配信内容
糖尿病シリーズ	糖尿病を知ろう ～糖尿病は身近な病気です～（2型糖尿の話）	2型糖尿病の基本について分かりやすく伝えている。
	糖尿病の運動療法	自宅でできる運動療法について、糖尿病の疾患患者さんが身近にできる運動療法について説明した。
	糖尿病の食事療法 Part 1 痩せるだけで治療が楽に！？ Part 2 食事療法＝楽しみ＋治療 Part 3 手抜き万歳！楽しんで続ける食事療法	糖尿病の食事について、自己管理できる楽な方法を紹介した。また、外食の際に、気をつけてもらいたい事など、日々の生活に密着した内容を盛り込んだ。忙しい人も短時間で視聴できるよう3部構成にした。
乳がんシリーズ	乳がんを知ろう	基本的な乳がんの疾患や検査などについて伝えている。

6) 人材確保：【病院説明会】

昨年に引き続き、インターンシップ等が中止となり、臨地実習の受け入れもBCPのフェーズに併せて縮小して行いました。そのため、看護師を目指して学んでいる学生が当院を知る機会が減っています。そのような中でも、昨年より開始した海浜病院 Zoom 説明会を今年度は、病院局、青葉病院と共同し「千葉市立病院説明会」として計画的に開催しました。手軽に参加できる Zoom 説明会のメリットを生かし、幅広い対象者に病院を知ってもらう機会を提供することで、今後の人材確保となるよう引き続き取り組んでいきます。

7) 臨地実習：【1 教育機関】

令和3年度の臨地実習は、新型コロナウイルス感染症拡大によるBCPのフェーズに則り、受け入れを調整し運営しました。そのため、1教育機関（青葉看護専門学校、実習生延べ79名）の受け入れに留まりました。

今後の課題：

教育機関及び、看護師・助産師の資格取得を目指す学生は、知識・技術の習得において、臨地での学びを必要としています。また、臨地実習での経験や学生が感じる病院の雰囲気は、学生にとって就職先を決定する上で重視する事項です。そのため引き続き、人材育成の貢献だけでなく、今後の人材確保対策として、教育機関とも連携しながら、柔軟に対応しながら臨地実習を実施していくことが課題です。

8) 学会発表・座長 一覧

年月	所属	氏名	テーマ	主催
令和3年 12月4日	相談センター	高島 美智子	末期がん患者と家族が自宅で最期を迎える 段階における意思決定支援	第45回 日本死の臨床研究会 年次大会
令和3年 7月7日	6階病棟	座長 狩野 桂子	第3回千葉県 Nurse オンライン講演会 「EGFR-TKI 副作用マネジメントにおける 当院の取り組み」	アストラゼネカ 株式会社

9) 執筆 一覧

テーマ	所属	氏名	書籍等	依頼先
痛み感覚のケア	新生児科	平井 麻美 松本 直美	「with NEO」 2021年5号	メディカ出版
学研ナーシングサポート 導入と活用について	看護部	千代田 操子	22年度版パンフレット ウェブサイト	学研メディカルサポート

10) 院外講師派遣 等 一覧

科目	所属	氏名	時間数	依頼先
母性看護学特論Ⅴ	7階病棟	阿部 祥子	令和3年5月7日 (2時間)	群馬大学大学院 保健学研究科
新人助産師研修 ～与薬の技術と 薬剤管理・医療安全～	7階病棟	橋本 理恵	令和3年5月31日 13時15分～16時15分	公益社団法人 千葉県看護協会
新人助産師研修 ～家族への支援・リフレク ション～	7階病棟	鴫田 裕美	令和3年6月4日 13時15分～16時15分	公益社団法人 千葉県看護協会
第20回認定看護管理者教 育課程セカンドレベル 統合演習	看護部	川村 美穂子	令和3年9月8日、30日、 11月11日、19日 (9時30分～12時30分) 26日 (9時30分～16時15分)	公益社団法人 千葉県看護協会
第19回認定看護管理者教 育課程セカンドレベル 看護管理実践報告会	看護部	千代田 操子	令和3年10月8日 9時～16時	公益社団法人 千葉県看護協会
看護師のクリニカルラダの 理解と施設内教育への活用	看護部	竹田 貴子	令和3年10月28日 13時10分～16時15分	公益社団法人 千葉県看護協会
小児看護学方法論Ⅰ、Ⅱ	3階病棟	中村 愛子	令和3年5月28日 6月8日、23日(16時間)	青葉看護専門学校
小児看護学方法論Ⅱ	新生児科	平井 麻美	令和3年6月1日 (4時間)	青葉看護専門学校
小児看護学方法論Ⅰ、Ⅱ	3階病棟	大村 奈未子	令和3年6月9日、21日、 7月5日(16時間)	青葉看護専門学校
老年看護学方法論Ⅱ	4階病棟	藤原 成美	令和3年5月11日 25日(4時間)	青葉看護専門学校
母性看護学援助法Ⅱ 分娩期の看護 産褥期の看護	7階病棟	鴫田 裕美	令和3年9月15日、22日 10月7日(12時間)	千葉県立鶴舞看護専門学校
母性看護学援助法Ⅱ 褥婦・新生児の看護	7階病棟	鴫田 裕美	令和3年10月25日 9時～12時15分	千葉県立鶴舞看護専門学校
令和3年度若いオスト メイト交流会 in ちば	6階病棟	鈴木 修子	令和3年12月4日 13時30分～16時	公益社団法人 日本オストミー協会 千葉県支部

分娩介助実習	7階病棟	阿部 祥子	令和3年12月15日 13時～17時	群馬県消防学校
科目	所属	氏名	時間数	依頼先
令和3年度 自己評価委員会	看護部	千代田 操子	令和4年3月17日 14時～14時40分	青葉看護専門学校
令和3年度 カリキュラム検討委員会	看護部	千代田 操子	令和4年3月17日 15時～15時40分	青葉看護専門学校